

第5学年 総合的な学習の時間指導案

日時 令和元年9月10日(火) 5校時
児童 男子9名 女子7名 計16名
指導者 教諭 森谷 聡

1 単元名 復興から学ぶ「いつか来るその日のために」

2 構想表

指導について

手立て1 問題を捉えるための効果的な資料活用の手立て

災害復興の様子を写真で提示したり、復興に携わった人々のコメントやエピソードを紹介したりして、問題意識を高め、課題をつかむことができるようにする。

手立て2 資料をもとに話し合い、自分たちにできることを考える手立て

自分の考えが深まるようにペアやグループで意見を交流したり、全体で話し合ったりする。

手立て3 以前の自分と比べたり、これからできることを考えたりする手立て

災害に関する知識や経験と今回の単元で学んだ知識や考えを比較検討し、これから起こりうるであろう災害について、どんな対策ができるか調べたり考えたりすることができるようにする。

児童について

西和賀町立湯田小学校は岩手県内陸に位置し、東日本大震災では、地震で大きな揺れを感じたが、津波の被害はテレビなどでしか知らない子どもがほとんどである。更に、5年生は、震災当時2歳と年齢が低く、あまり記憶にないのが実情である。(アンケート結果にもよる)

しかし、1学期の学習で東日本大震災以降、世界中の多くの方が復興に向けて支援してくれたことや、地域みんなで支え合い協力したことについて以前より深く考え、災害に対する関心や知識をもっている子どもが増えている。

そこで、2学期では北海道胆振東部地震の時、東日本大震災の教訓を生かして備えをしていたある企業の例をもとに、「いつか来るその日のために」に備えることの大切さを理解した上で、今後30年間で起こることが予想された地震予想地図をもとに、自分たちでできることは何か考えさせ

教材について

「いわての復興教育」に記されているように、児童には未来があり、夢や希望がある。そのために、「東日本大震災の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方、あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造する人をつくる教育」が必要である。

しかし、児童の年齢的にも、地理的な面からしても東日本大震災復興の様子についてあまり知らなかったり、社会的に風化の傾向があったりする。そのような中で、今後30年後起きる地震について発表されており、日本で地震災害がおきる可能性がある。このような教育及び社会的背景からも、震災当時の様子そして復興の様子を知ったり、これから起こりうるであろう災害について、どのような備えができるか考えたりすることができるように本題材を設定した。

3 単元の目標・評価規準

(1) 目標

【知識及び技能】

- ・副読本や教師の提示する資料などをもとに、災害の被害や復興に向けての支援や人々の努力について理解すること。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・復興に向けて、自分ができることを考え、計画すること。

【学びに向かう力・人間性等】

- ・友達の意見をしっかり聞き、自分の考えと比較検討した上で自分の考えを決めようとしている。

(2) 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・アーカイブなどや図書室の本から分かったことや考えたことをノートにまとめたり、発表したりできる。 ・副読本や教師の提示する資料などをもとに、災害の被害や復興に向けての支援や人々の努力について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを通して日々の生活を見つめ直し、日常生活が普通に営まれていることに対し、感謝している。 ・復興に向けて、自分ができることを考え、計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見をしっかり聞き、自分の考えと比較検討した上で自分の考えを決めようとしている。

4 単元の指導計画（全9時間）

段階	活動のねらい	学習活動	主な評価規準
か か わ る	津波の被害や復旧活動について知ろう。	久慈市の津波被害の様子や復旧活動に努力した方々を教師の作成した資料で学習する。	知 教師の提示する資料などをもとに、東日本大震災の被害や復興に向けての支援や人々の努力について理解している。
	海の被害について知ろう。	久慈市二子朝市の漁業長の体験話をもとに漁港の被害について教師の作成した資料で学習する。	思 学習したことを通して日々の生活を見つめ直し、日常生活が普通に営まれていることに対し、感謝することができる。
	東日本大震災について調べよう。（2時間）	「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を活用し、東日本大震災について、当時の様子や復興への取り組みについてまとめ、発表する。	技 アーカイブなどや図書室の本から分かったことや考えたことをノートにまとめたり、発表したりできる。 主 友達の意見をしっかり聞き、自分の考えと比較検討した上で自分の考えを決めるようとしている。

そ な え る	動物の被害について知ろう。	動物病院の医師が、ペットと飼い主との関係を守る努力をしたか教師の作成した資料で学習する。	[知]教師の提示する資料などをもとに、東日本大震災の被害や復興に向けての支援や人々の努力について理解している。
そ な え る	北海道胆振東部地震について知ろう。(本時)	北海道胆振東部地震で被災した人たちのために尽力した会社は、東日本大震災の教訓を生かし備えていたことを知り、備えの大切さを学習する。	[知]教師の提示する資料などをもとに、北海道胆振東部地震の被害や復興に向けての支援や備えの大切さについて理解している。
	いつかくるその日のために備えよう。(3時間)	<p>今後 30 年間で起きる災害予想図をもとに、未来の社会生活ではどのようなことが備えることができるか「おしごと年鑑」などを読み、具体的に考え、提案する。</p> <p>またその提案した考えに「おしごと年鑑編集者」からの返事を読み、自分の考えについて振り返る。</p>	<p>[思]復興に向けて、自分ができることを考え、計画している。</p> <p>[主]友達の見解をしっかりと聞き、自分の考えと比較検討した上で自分の考えを決めるようとしている。</p>

5 本時について (6/9)

(1) 目標

北海道胆振東部地震の際、すぐに営業を再開したコンビニエンスストアを調べることを通して、備えの大切さについて理解できるようにする。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	・指導上の留意点 □評価 ◆手立て
導入 5分	1 東日本大震災で復旧・復興に携わった人たちを想起させた後、北海道東部胆振地震の被害の様子や復旧・復興に携わった人たちについて考える。 ・すごい山崩れです。 ・道路が壊れています。 ・東日本大震災の時のように色々な人が働いたと思います。 2 本時の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> なぜコンビニエンスストアは営業できたのだろうか。 </div>	・1学期に使用した写真を使用し、以前の学習を想起させる。 ・一つの円で復興に携わった人たちを表し、連帯感を意識させる。 ・山崩れや道路が崩壊している写真を見せて、被害の状況を伝える。 ◆災害支援に携わった写真で提示し、興味をもたせて、課題をつかむことができるようにする。(手立て1)
展開 25分	3 コンビニエンスストアがなぜ営業できたのか予想する。 4 なぜコンビニエンスストアが営業できたのか資料をもとに調べ、その理由を出し合う。 ・東日本大震災の大変だったことを生かしたからだと思います。 ・電気からガスに代えたためだと思います。 ・お客さんが喜んだ。 ・おにぎりを400個作った。 5 まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> コンビニエンスストアは東日本大震災のことを生かし災害に向けて準備をしていた。 </div>	・予想に対しての補足として、コンビニエンスストアの物流などについて説明する。 ・コンビニエンスストア本社にインタビューしたことをもとに、文で分かりやすく提示する。 □教師の提示する資料などをもとに、北海道胆振東部地震の被害や復興に向けての支援や備えの大切さについて理解している。(発表・ノート)
終末 15分	6 今後30年間の地震発生率地図を見て、将来のことを考える。 ・たくさんの箇所で地震が起きるかも知れない。 ・災害に向けて早く準備をする必要がある。 7 感想を書く。 8 次時の学習を知る。	・二人に1枚、地図を渡すことによって自然にペアで考えを深めさせる。 ◆災害に対する考えを深めるための資料を提示する。(手立て3) ・児童の感想を発表させて考えを広める。

(3) 板書計画

課

なぜコンビニエンスストアは営業できたのだろうか。



予想

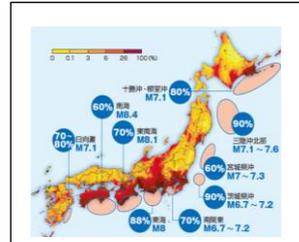
- ・震災に向けて準備していた。
- ・東日本大震災から準備をしていた。
- ・電気からガスにした。

気持ち

- ・うれしい
- ・自分たちの出番

ま

東日本大震災の教訓を生かし災害に向けて準備をしていた。



- ・たくさんの箇所で地震が起きるかも知れない。
- ・災害に向けて早く準備をする必要がある。